

免許マニアではありません ～資格を取るには理由がある～

牧 昌次郎

免許取得のきっかけは何ですか

卒業研究のため、天然物化学の研究室に入りました。天然物化学の研究室は、単離抽出の班と合成の班に大きく分かれており、自分は、「電極反応を利用した、生理活性天然物（トリキナン型セスキテルペン）の全合成」をテーマにいただきました。修士課程、博士課程へ進んだのですが、博士の学位を取得するためには筆頭著者で3報以上の投稿論文が必要でした。しかし、天然物の合成は容易ではなく、天然物化学に絡めた合成の論文を出すためのデータすら、なかなか得られません。先輩方は日付が変わっても実験しておられたので、4年生の後期から自分もそれに倣って実験をするようになりました。後から伺ったのですが、先輩方にはかなりご迷惑をお掛けしていたようで、大変申し訳なく思っております。

日付が変わる頃には終電も終わっているので、当時は車で通うようになっておりました。TAになると、学内の駐車場が借りられました。このため毎夜、大型トラックを見掛けており「大型トラックの運転ができれば、たとえ博士の学位を得ることができなくても、ちゃんと生活していけるのではないか」と考えるようになりました。当時の免許制度には中型免許は無く、普通免許の次は大型免許だったので、夏に大学が閉鎖される時期を使ったりして密かに大型免許の取得に行きました。自分自身は「実験が最優先」で、免許取得に時間を割くことは望ましいとは思っていませんでした。試験場で、免許の交付を待っているときに、見知らぬ年配の方から、「お兄ちゃんみたいに、若いときは長い（長距離）も大丈夫だろうけど、年を取ってくるときつくなってくるから、ウンボ（大型特殊）とか取っておいた方がいいよ」とアドバイスをいただきました。若かったので、アドバイスを信じて、博士課程在学中に、大型特殊免許を取得しに教習所へ行きました。これは、3日間各2時間教習、4日目検定の4日間であっさり取得できました。大特免許取得をされるときは一般には装輪（タイヤ）で免許を取得することになるのかなと思います。装輪で取得しても、装軌（キャタピラ）も乗れると思います。

その後、縁あって帝京大学薬学部助手を経て、現在の電気通信大学に奉職するのですが、毎日のように大型トレー



旧免許なので、普通は中型（限定）になっています。

ラーが交差点を曲がる様子を見ることになり、「これができるようになりたい」と思うようになりました。技術習得（できること）に強く魅力を感じる性格なのかもしれません。そこで休日を使って、けん引免許を取得しました。

取得が難しかった免許は何ですか

けん引免許は圧倒的に難しかったです。大型車はもう、車両感覚だけでは運転できないので、ミラーを見る習慣が必要です。大型車では、ミラーで左右の後ろのタイヤ、車両の前面も見えます。特に走り出しは、車高が高いのでミラーで車両の前面の死角を見て、人や荷物がいないかどうか確認しなければなりません。普通車とは運転の仕方が変わるので、これを習得しておく、大特は運転しやすいです。しかし牽引は、真ん中で荷台が折れるので、バックするときは左右のハンドルが逆になります。頭が混乱してしまいます。「けん引免許は真っすぐ後退できれば取れる」といわれるほど、真っすぐ後退することが難しいのです。

資格取得後の意識に変化はありますか

運転免許のほか、中・高理科（専修）の教員免許があります。このほか、甲種危険物取扱者、特定化学物質等作業主任者、有機溶剤作業主任者、局排等定期自主検査講習修了証、衛生工学衛生管理者を取得しました。また、東京都公害防止管理者（1種）、特別管理産業廃棄物管理責任者、産業廃棄物中間処理施設技術管理士、環境物質管理特別技術管理士の環境・廃棄に関する資格も取得しました。薬品は取り扱い資格に目が行きがちですが、廃棄の法律は遥かに厳しいです。廃棄を知ることで、自信をもって、どんな物質でも適正に扱えるようになりました。



まき・しょうじろう
電気通信大学 副学長・教授
〔専門〕生物有機化学。発光生体標識材料・抗がん剤の
創薬研究。
E-mail: s-maki@uec.ac.jp